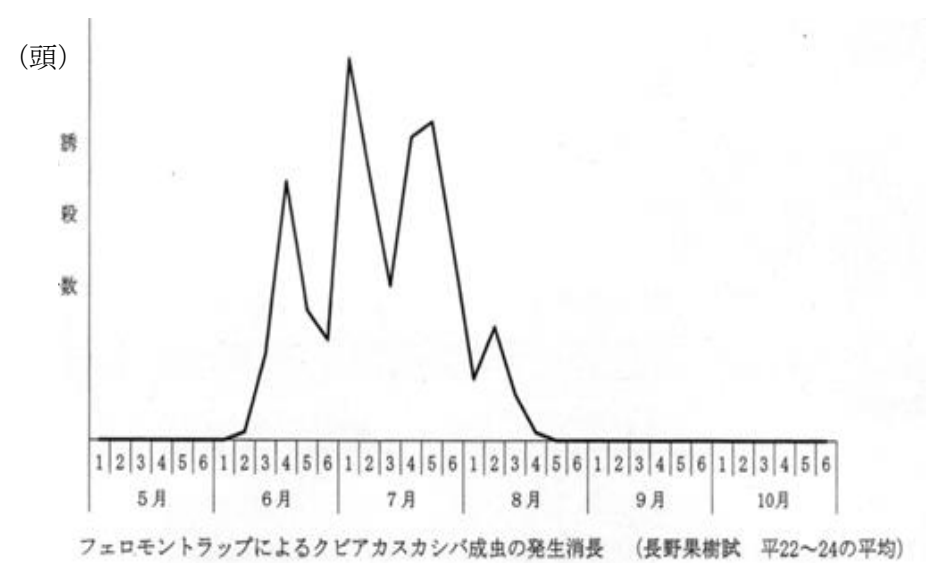


クビアカスカシバのフェロモントラップ誘殺消長（令和7年（2025年）調査）

病害虫防除部

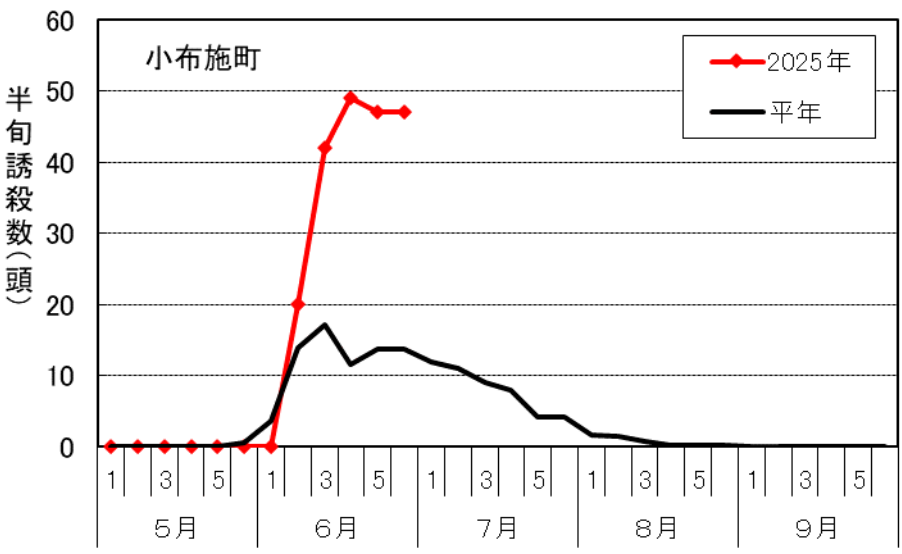
2010年から2012年までの消長模式図（果樹試験場内）



【発生生態と防除のポイント】

- ・年1回発生する。
- ・終齢幼虫が10月頃被害樹から土中に移動し、地表から数cmのところでは土繭をつくり越冬する。
- ・成虫は6月中旬頃から羽化し始め、8月中旬頃まで産卵する。
- ・体長は約3cm、翅は透明で外観はスズメバチに似ている。
- ・食入部の早期発見や枝幹部への薬剤のかかりを良くするために、休眠期に粗皮削りを行う。
- ・落花10日後（果粒の小豆大期）までと7月下旬から8月上旬（袋掛け後）の2回、登録のある殺虫剤を枝幹部に十分かかるように散布する。
- ・幼虫の被害部を見つけたら捕殺する。

○小布施町（病害虫防除部）



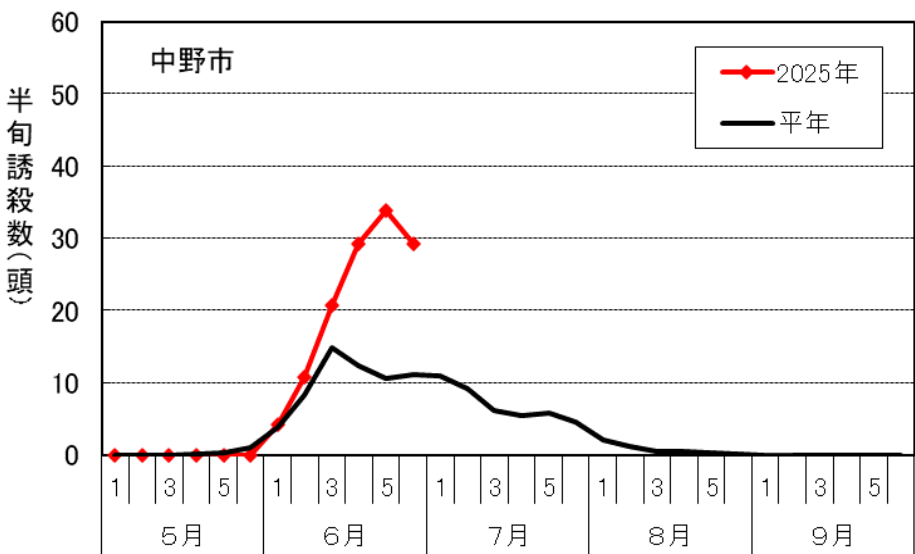
【調査地点】（標高約340m）

- ・小布施町（ぶどうほ場）
- ・調査開始 5月1日
- ・平年は2015年～2024年の平均値

【コメント】

- ・初誘殺は6月第2半旬であった。
- ・初誘殺以降、平年を大きく上回る誘殺となっており、誘殺数は高止まりとなっている。

○中野市（北信農業農村支援センター調査協力）



【調査地点】（標高約360m）

- ・中野市（ぶどうほ場）
- ・調査開始 4月30日
- ・平年は2015年～2024年の平均値

【コメント】

- ・6月第1半旬の初誘殺以降、ほぼ平年と同じ発生消長をたどっていたが、第5半旬まで増加が続き、誘殺数は平年の2倍程度となっている。